

ベンデ語の転写法と正書法の提案

阿部 優子(東大院)

テーマ:未記述、無文字言語;ベンデ語の文字化(転写法・正書法)を考える

1 アフリカ諸言語の文字

アフリカの諸言語は、いくつかの例外を除き、長い間、文字を持たない無文字社会だった。こうした言語の文字化に際しては、いくつかの問題がある。第一に、部族語を文字化しても、識字教育が十分に行うのが困難で、部族語話者が文字を操ることは殆ど無い。第二に、基本的に、アフリカは複数言語社会で、一般の人々は部族語以外の言語で文字を持つ言語を知っているケースが多い。その場合、文字化する必要のある情報は、文字を持つ言語で行うことができる。それと同時に、部族語はマスメディアなどでの使用範囲が極めて限られているため、結局のところ、言語学者の転写のための道具、ないし、せいぜい私信での使用に留まる傾向がある。つまり、アフリカ諸言語では正書法を制定しても、現地の話者によって積極的に使用されないこともある。

2 ベンデ語アウトライン

2.1 系統



(タンザニア連合共和国: 矢印がベンデ語使用地域)

ベンデ語 (Bende, siβende: Niger-Congo)

Guthrie の分類 (Guthrie, 1967): F.12

話者数 : 約 27,000 (Liddle&Liddle, 1999)

複数言語社会 : スワヒリ語・ベンデ語の二言語は必須。それ以外にも、フィパ語、ハ語などの周辺の有力言語も話される。文字を持つ言語はスワヒリ語のみ。

2.2 音チャート

子音 (/*/=phoneme)

	bilabial	labio-d.	dental-post alv.	palatal	velar	uvular	glottal
plosive	/p/ b		/t/ /d/	c	/k/ g		
nasal	/m/		/n/	/ɲ/	/ŋ/		
fricative	/β/	/f/ (/v/?)	/s/ /z/		/ɣ/		/h/
lateral approximant			/l/	ʎ			
affricate			/tʃ/	/dʒ/			
implosive	/ɓ/		/ɗ/				
semivowel (glide)?	/w/			/j/			

母音

Short vowels

	+front	-front
+high	/i/	/u/
		ɯ
		/o/
-high	/ɛ/	/a/

Long vowels

	+front	-front
ɪ̄ . ɔ̄	/i:/	/u:/
		ɯ:
		/o:/
ɛ̄ . ɔ̄	/ɛ:/	/a:/

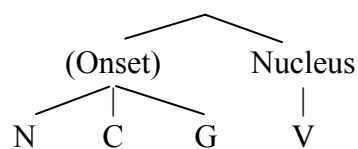
2.3 音素

	音素	音	transcription	
plosive	/p/	[p]	p	
	/t/	[t]	t	
	/d/	[d]	d	
	/k/	[k]	k	
		[c]	/k/ c / __ V (+front)	k
nasal	/m/	[m]	m	
	/n/	[n]	n	
	/ɲ/	[ɲ]	ɲ / __ V	G
	/ŋ/	[ŋ]	homorganic N preceding plosives and fricatives?	(each above)
	/N/	[m,n,ɲ]		
fricative	/β/	[β]	bh	
		[b]	/β/ b /m__ /β/ β ~ b / __ u (free variant)	b
	/f/	[f]	f	
	/v/	[v]	only one sample (loan word, loan sound from Swahili)	v

	/s/	[s]		s
	/z/	[z]		z
	/ɣ/	[ɣ]		gh
		[g]	g / ŋ__	g
	/h/	[h]		h
lateral	/l/	[l]		l
		[ɭ]	l ɭ / __[i]	l
affricate	/tʃ/	[tʃ]		ch
	/dʒ/	[dʒ]		j
implosive	/ɓ/	[ɓ]	(loan word, loan sound from Swahili)	B
	/ɗ/	[ɗ]	(loan word, loan sound from Swahili)	D
semivowel	/w/	[w]		w
	/j/	[j]		y
vowel	/o/	[o]		o
		[ɔ]	/o/ ɔ / l__	o
	/ɛ/	[ɛ]		e
	/i/	[i]		i
	/u/	[u]		u
	/a/	[a]		a
vowel	/o :/	[o:]		o:
		[ɔ:]	/o/ ɔ: / l__	o:
	/ɛ :/	[ɛ:]		e:
	/i :/	[i:]		i:
	/u :/	[u:]		u:
	/a :/	[a:]		a:

2.4 音節

(N)(C)(G)V : open syllable



#The structure allows the V without Onset.

<The inventory of syllables>

NV CV GV V

NCV CGV

NCGV

3 ベンデ語転写法

阿部が現在、便宜的に記述に使っているもの。この転写法の目的は、以下の二点である。

言語学的記述に必要な情報がある程度、盛り込めること。母音の長短、トーンといった、超文節的信息も表記されること。

コンピュータでの処理を容易にするため、アスキーコードの記号のみを使うこと。

音価の文字化に際しては、一音素一文字を目指しているが、組み合わせ文字を使用しているものもある(2.3 参照)。また、一音素の異音に別々の文字を当てているものがある(b と bh、g と gh)。この場合は、二音の聞こえがかなりかけ離れていること、また、この異音は、環境によっては自由異音なので、書き分けておく方が適当と判断した。

超文節的信息は、長母音には: (コロン)、高トーンの母音には' (アポストロフィ) を後続させる。ただし、トーンについては、基底形では高トーンしか認めていないが、表層形では下降音調、上昇音調が現れる。表記の際は、下降音調には^ (アクサン・シルコンプレクス) を、上昇音調には\ (バック・スラッシュ) を当該母音の後につける。また、表層形で鼻音化するものについては、~ (ティルデ) を当該母音の後につける。

以上の道具立てで、音素体系を基本とした、言語学的記述に必要不可欠な情報は、大体表示できることになる。なお、イントネーション、相槌、音色(ベンデ語ではそれほど関与的でない)については、この転写法では一切表記されない。

4 ベンデ語正書法の提案

4.1 アフリカ諸言語の正書法

清水(1988, pp.320-321)、Piłaszewicz(1994, p.87)によれば、アフリカの諸言語の正書法の歴史は、古くはウィリアム・ジョーンズ卿が1788年に提案した「母音はイタリア語の音価に、子音は英語の音価のように記述する」という原則に則っている。さらに後年、1863年に出版された、上記の原則に基づくレプシウスの*Standard Alphabet*が鋳型となっている。しかしこの時期には、まだ声調等がきちんと認識されておらず、レプシウスの原則では、声調は表記されないことになっている。その後、ヴェスターマンとワードが1933年、*Practical Phonetics for Students of African Languages*で、IPAの表記(一音一文字が原則)を提案したが、実際はタイプライターでの表記が困難なことから、殆ど実用化されなかった。

ケニア・タンザニアの諸言語の正書法は、慣習的にウィリアム・ジョーンズ卿の「母音はイタリア語の音価に、子音は英語の音価のように記述する」の原則に則り制定さ

れた、スワヒリ語（流通している書き言葉）の正書法に倣っている。

3で提案したベンデ語転写法でも、音価については、ほぼ、上記のように他のケニア・タンザニアの諸言語の表記に倣っている。しかし、実用的な正書法を提案するには、この転写法から、ある程度、情報を落とす必要がある。ここで特に、問題になるのは母音の長短、トーン、鼻音化といった超文節的信息である。

これらの情報が欠けると、元の形を類推することは不可能である。しかし、トーンに関しては、ベンデ語は、複音節語（2・3音節語）が主であり、トーンの表記がなくても、ある程度は混乱が起これないと考えられている。したがって、他のバントゥー諸語でも、正書法でトーンを表示する言語はまれである。また、長母音に関しては、母音を二つ連続して表記するものが多い。

トーン記号、長音記号、鼻音記号などの補助記号は、日本語の振り仮名のように、初等教育現場で必要な場合や、ネイティブ以外の学習者のための表記など、必要な場面でのみ振るようにはどうだろうか。

また、転写法では、大文字を使っていた音価については、別の文字を当てた。実用の場面では、大文字は別の機能を担うからである。大文字は、文頭を示す表示になることが多いし、また固有名詞の語頭、強調の際にも用いられることがあるだろう。したがって、正書法では、大文字・小文字で別々の音価を担わせないことにした。

[ŋ]については、転写法ではGを用いたが、正書法では、スワヒリ語同様、ng'を提案する。入破音[b] [d]は、スワヒリ語からの借用語で、ベンデ語の音構造の類推規則がかかっていない語についてのみ用いられる音なので、実用の表記上は、マージナルなものと考え、それぞれb dで表記するよう提案する。

4.2 スワヒリ語正書法との比較

以下に、スワヒリ語の音チャートと正書法とベンデのものを対照表にする。大方、類似していると言える。

ベンデ語

	音素	音	Bende orthography (recommended)
plosive	/p/	[p]	p
	/t/	[t]	t
	/d/	[d]	d
	/k/	[k]	k
		[c]	k
nasal	/m/	[m]	m
	/n/	[n]	n
	/ɲ/	[ɲ]	ny
	/ŋ/	[ŋ]	ng ^ʔ
	/N/	[m,n,ŋ]	(each above)
fricative	/β/	[β]	bh
		[b]	b
	/f/	[f]	f
	/v/	[v]	v
	/s/	[s]	s
	/z/	[z]	z
	/ɣ/	[ɣ]	gh
		[g]	g
	/h/	[h]	h
lateral	/l/	[l]	l
		[ɭ]	l
		[ɮ]	l
affricate	/tʃ/	[tʃ]	ch
	/dʒ/	[dʒ]	j
implosive	/ɓ/	[ɓ]	b
	/ɗ/	[ɗ]	d
semivowel	/w/	[w]	w
	/j/	[j]	y
vowel	/o/	[o]	o
		[ɔ]	o
	/ɛ/	[ɛ]	e
	/i/	[i]	i
	/u/	[u]	u
	/a/	[a]	a
	vowel	/o :/	[o:]
[ɔ:]			oo
/ɛ :/		[ɛ:]	ee
/i :/		[i:]	ii
/u :/		[u:]	uu
/a :/		[a:]	aa

スワヒリ語

	音素	音	Swahili orthography
plosive	/p/	[p]	p
	/t/	[t]	t
	/d/	[d]	d
	/k/	[k]	k
	/g/	[g]	g
nasal	/m/	[m]	m
	/n/	[n]	n
	/ɲ/	[ɲ]	ny
	/ŋ/	[ŋ]	ng ^ʔ
	/N/	[m,n,ŋ]	(each above)
fricative	/b/	[b]	b
	/f/	[f]	f
	/v/	[v]	v
	/θ/	[θ]	th
	/ð/	[ð]	dh
	/s/	[s]	s
	/z/	[z]	z
	/ɣ/	[ɣ]	gh
	/h/	[h]	h
	lateral	/l/	[l]
[ɭ]			l
affricate	/tʃ/	[tʃ]	ch
	/dʒ/	[dʒ]	j
semivowel	/w/	[w]	w
	/j/	[j]	y
vowel	/o/	[o]	o
	/e/	[e]	e
	/i/	[i]	i
	/u/	[u]	u
	/a/	[a]	a

スワヒリ語は Mohammed (2001)より、一部改定

5 参照文献

Guthrie, M. (1967). *The Classification of Bantu Languages*. International African Institute. London

Liddle, D. and Liddle, K. (1999). "A Sociolinguistic Survey of the Bende Language, Mpanda District, Rukwa Region". SIL-Tanzania. Dodoma

Mohammed, M. A. (2001). *Modern Swahili Grammar*. East African Educational Publishers. Nairobi, Kampala, DSM

Piłaszewicz, Stanisław. (1994). *Wstęp do Afrykanistyki*. Wydawnictwo Uniwersytetu Warszawskiego. Warszawa

清水 紀佳 (1988). 「アフリカの諸言語」 /in/ 『言語学大辞典 第1巻 世界言語編』三省堂. pp.237-437